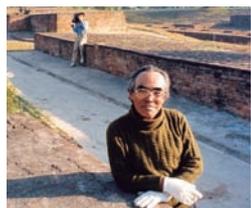


明日香村で
「網干先生を偲ぶ会」高松塚古墳壁画発見、祇園精舎遺跡発掘
後進育成にも尽力

生涯をかけて古代史の研究と教育に情熱を傾けた網干善教名誉教授(明日香村名誉村民)を偲ぶ会が、10月16日に明日香村中央公民館で開かれました。



7月29日に亡くなられた網干名誉教授は、関西大学助教授だった1972年、高松塚古墳発掘の現場責任者となり、「飛鳥美人」や四神図などの極彩色壁画を発見し、考古学ブームを巻き起こしました。

高松塚古墳以外にもキトラ古墳の学術調査団顧問を務めるなど、飛鳥地方の古墳調査を続ける一方、86年からは関西大学の調査隊を率い、インド政府と共同で祇園精舎遺



跡の発掘に当たりました。関西大学の博物館長や飛鳥文化研究所長を歴任し、後進の育成にも尽力されました。

「網干先生を偲ぶ会」では、生前の写真や高松塚古墳発掘の様子映像が放映され、森本靖一郎理事長らがあいさつ。参会者約400人が最後の別れを惜しまました。

なお、網干名誉教授には7月29日付で従五位瑞宝中綬章が追贈されました。

誠之館1号館跡地を緑の広場に
夜はライトアップイルミネーション

関西大学の千里山キャンパスに、学生が自由に集い、憩うことができる開放感あふれるスペースが誕生しました。

関西大学生協同組合が総合学生会館「メディアパーク凜風館」に移転したことに伴い、誠之館1号館を解体。その跡地に、青空と緑が広がる空間を創出するため、芝生広場やベンチを整備し、「悠久の庭」と名付けました。緑豊かなキャンパスの中心にふさわしいアメニティーが整いました。

さらに、芝生広場を囲む23本のケヤキを約15,000個のLED(発光ダイオード)によるイルミネーションで飾り、輝く広場を演出します。11月1日に点灯式を挙げる。原則として大学休業日以外の夜間に毎日ライトアップする予定で、地域住民の方々にも親しんでいただける空間として開放します。

「教務センター」が業務開始
学生・教員へのサポートを充実

千里山キャンパスの第2学舎1号館1階に「教務センター」が設置され、9月21日から業務を開始しています。今まで学部事務室・大学院事務室が行ってきた修学上必要な諸手続きに関するサービス(教務事務)と教員に必要な教務に関するサービスは、教務センターでまとめて行われるようになりました。

1カ所に対応することにより、事務スタッフのパワーを集中させて、より一層の教育的効果やサービスの向上に特化しようというのが狙いです。教務センターは相談業務の充実も図っています。

また、授業に直接関連するサポートを行う「授業支援ステーション」が、各学舎内に配置されています。